

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.16

【新しい日常を生きる③ ～在宅要支援高齢者対策～】

コロナ禍の中、高齢者への感染リスク大として全国の病院や介護施設では面会禁止の措置をとるところがほとんどで、そこに入っている（利用している）患者さん（利用者）のご家族は面会することができず歯がゆい思いを強いられています。緊急事態宣言が解除された後、しばらくの間、面会禁止が解除されたものの再び面会禁止となった所が多く、私も九州の介護施設を利用している母と面会がかなわず、時々、施設側が用意してくれたビデオ通話での面会で無事を確認しています。

終末期のがん患者さんはどうでしょうか？ いつ容体が急変するかもしれない状態にあり、家族の面会によって感染するとさらに危ない状態となるため、当然ですが面会禁止状態です。このような状態では、家族が最期にたちあうことができない可能性が高いといえます。そのため患者さんと家族をつなぐためにタブレット端末を利用して面会をかなえている心ある医師もいらっしゃいます。

7月から感染拡大が続く中、楽しみにしていたお盆の帰省を断念し「オンライン帰省」した方たちは多いことでしょう。

では、在宅で介護を必要とされる高齢者の方たちはどうでしょうか？ 少子高齢化の現在、介護を必要とする独り暮らしの高齢者数は驚くほど多く、中には認知症と診断されている方も多くいらっしゃいます。そういう方たちが、住み慣れた町の住み慣れた家で、自分の力でフツウの生活をおくることができるように、訪問医師、看護師、ケアマネージャー、薬剤師、ヘルパー、といった医療・介護スタッフが連携し地域医療を支えています。

浅草の健康サポート薬局「ケイ薬局」の“みやちゃん”こと宮原富士子さんも在宅医療スタッフの一人として居宅療養指導、在宅服薬指導などの分野で地域を奔走しています。このコラムの初期の方で紹介したと思いますが、みやちゃんが担当する患者さんの数は百名を超えています。コロナ騒動でいつも騒々しい浅草の街が静かになっても、みやちゃんは車や自転車を利用して在宅患者さんに薬を運び、

様子を見て生活支援にあたっています。

収まることのないコロナ禍が半年を超え、あれこれ浮上する課題の中で在宅要支援高齢者対策として、日々、みやちゃんが考えていることを聞きました。

施設や病院同様、やはり、在宅高齢者にもタブレット端末の必要を感じています。その現状は……。

- 1) デイサービスに行けない ⇒ 人と話せないなので、ほとんど一人ぼっち。
- 2) ガラケーしか持ってない ⇒ 色々使いこなせない。そもそも携帯電話そのものを持っていない人も多い。
- 3) パソコンやインターネットって何？という人ばかり。
- 4) 音のでるものはテレビのみがほとんど ⇒ ニュースやワイドショーで洗脳されうなされる。

高齢者の多くはPCやスマホなどの機器をもつことに抵抗を覚え、家族に持たされても使いこなせないケースが多いようです。

コロナ禍による医療崩壊を回避するためには、感染しやすい高齢者が入院することがないようにしなければなりません。大き目のタブレットを用意して、WEB会議の方法でつながると関係者が動きやすいのではないか！とみやちゃんは考えます。

- ケアマネジャーの定期訪問 ⇒ 曜日を決めて声掛けし、用事があるときに電話にプラスして顔見る。
- 認定調査も立ち合いは誰にするかは別として訪問なし。
- 薬剤師など頻繁に会話できそうだし、医師・看護師の訪問回数も減らして逆にWEB上で会う回数が増える？
- 大事なことは「デイサービス」に行けない高齢者、デイサービスに利用者が来なくて経営が厳しいところを解決できる手段になるのではないかと思う。

高齢社会の抱える問題は数多くありますが、独り暮らしの高齢者と連絡がとれない時は、彼（彼女）になにかあった時と考えられます。孤独死をふせぐためにも、彼らと支援者をつなぐ手段（ツール）が多々あると便利なのはいうまでもありませんよね。

高齢者を感染させないように細心の注意を払って奮闘されている在宅介護にあたっているスタッフの方々、本当にご苦労さまでございます。